

スマートLOA LOA - R5GP

携帯用LOA LOA - R3GP

電磁波は悪くない！！



LOAをスマートフォンや携帯電話に貼ることで、電磁波の持つマイナス(ノイズなど)が減少、若しくは消えます。

LOAの開発に当り、真っ先に商品化したのが携帯(電話)用LOAです。

子どもたちを(誘拐などの)凶悪犯？から守るために子どもたちに携帯電話を持たせて、GPS機能を使い子どもの居場所を常に確認したいという本末転倒な親や社会の認識の危うさ(電磁波)から子どもたちを守りたいとの願いからLOAを開発した、と言っても過言ではありません。

近年IT及び通信技術が飛躍的に発達し、ご承知のように携帯電話にとって代わりスマートフォンが無線通信電話の主流となっています。大容量の情報をやり取りするための基地局は全国津々浦々に建設され、通信のスピードは格段に速くなりつつあります。それに伴い人体への影響も甚大になると理解したほうがよさそうです。

2014の調査では小学6年生の13%、中学2年生の41%、高校2年生の88%がスマートフォンを使用していました。ガラケー(従来型携帯電話)と合わせると、高校生では100%近い使用率です。

某工業試験場に電磁波の波形と音圧の測定実験をお願いしました。結果、LOAを貼る前と後の比較では、ノイズが消え、音圧が44%も下がりました。それにより、音がクリアーになり聞き易く話し易くなりました。

その他、愛用者の生体反応としては、携帯電話を使用することで、頭痛や吐き気がしていた人たちが、携帯用LOAを貼ってから長時間話していても頭が痛くならない、吐き気がしない、体が楽になった、そして、食品に近づけると美味しくマイルドになった、などです。

LOAの特長は、(目で捉えることはできませんが)触れるものすべてのバランスがよくなり、中庸化、活性化していきます。これから、LOAの必要性は益々はっきりしてきます。

2011.6月、世界保健機関(WHO)の専門組織「国際ガン研究機関」が、携帯の長電話が電磁波による『発がん性の可能性』として警鐘を鳴らした。(6月1日のNHKのTVニュース及び6月2日付 新聞各紙の報道より)

WHOは2007年にも「小児白血病との関連が否定できない」として、電化製品や高圧送電線が出す超低周波電磁波の人体への影響があるとして世界各国に法整備を呼び掛けた。

日本国内においても、電磁波の危険性に関する疫学調査や研究・論文は一時期矢継ぎ早に発表されたが、いつの間にか公表されることはなくなった。また、多くの研究者やジャーナリストの電磁波汚染の書籍もたくさん出版されている。

関係する産官学は経済性を優先させ、目先の利益や保身の為に問題や課題を明らかにせず、どうしたら解決できるか示せない。ジャーナリストも根本解決の糸口すら提案できずにいる。

未来の宝である子供たちの健康を守ることができず、むしろ脅かすような社会に、豊かで明るい未来が訪れることはない。

